



第29号

2012.3



社団法人 **千葉県緑化推進委員会**



- 1 ボランティアの手によって植樹された苗木は、クロマツの他にトベラ、マサキなど約6000本（浦安海浜公園・殿下海水浴場）
- 2 平成2年ごろ 美しいクロマツが生い茂る浦安海浜公園の遊歩道は市民憩いの場でもあった
- 3 平成24年2月 海岸沿いの松は津波になぎ倒されたため撤去された。後方の樹齢25～50年程度の松は幸うじて生き残っている（浦安海浜公園・殿下海水浴場）

特集

緑の力を信じて ～震災からの復興～

未曾有の災害となった東日本大震災。津波の猛威は千葉県の沿岸部をも襲い、地盤の弱い地域に液状化という被害をもたらしました。自然の力は計り知れず、人はただ驚き悲しみ苦しむばかり。そして1年が経ち、被災地はその苦しみの中から復興の糸口をつかみ、一歩ずつ前へ進み始めたばかりです。千葉県で大きな被災地となった九十九里海岸と、浦安の埋め立て地。双方の被害と復興状況をまとめました。

九十九里海岸

津波を軽減させた海岸林の復興

美しく弓なりにどこまでも続く砂浜と、青々とした松が茂る海岸林が特徴の九十九里浜の姿は、日本の原風景といっても過言ではありません。その美しい太平洋岸に3月11日、津波は押し寄せました。死者や行方不明者を出した旭市は特に被害が大きく、海岸は壊滅的な被害となりました。しかし津波による被害は九十九里浜全域に及んでいました。

植樹により育成管理されてきたクロマツの海岸林は、根こそぎ引き抜かれた状態となった所があり、砂丘や土留の欠損による被害も起きています。また一見助かったように見えた部分もその後塩害などが発生し、今後植栽の必要な面積は、松くい虫や過湿による害も含め300haを超えています。

しかしこれらの海岸林が津波の勢いを軽減し、被害を最小限にとどめ、人々の命を守ったのも事実。海岸に接する市町村では砂丘の改修や新たな植樹などを積極的に進めていきたいという考えもあり、現在は北部林業事務所が復旧に向けて作業を進めています。ボランティアによる植樹等も行われていますが、それらの木が無事に育ち、美しい海岸の姿を取り戻すには30年はかかります。地道な取り組みと、見守る人々の熱意が海岸を育てています。



被災した松を伐採した後、新たに台形に盛土を整備。この上に植樹することで、防波の役割も果たすこととなる（旭市様）



人や車が通るために砂丘が削られていた部分から津波が押し寄せたため、左右と同じ高さまで砂を入れた。今後緑化を行う予定（白子町・五井海水浴場）

1



一層1mほど掘り下げ、ガレキ交じりの土砂を投入

土砂はその多くが砂のため、市内の固定種を堆肥化したものなどを混ぜて土壌を改良

2



2011年12月18日に行われた植樹祭には、大勢の小学生が参加。大きく育つことを願って丁寧に植樹

3



みんなで作ったよ!

4



2012年1月、植樹から1ヵ月。テストケースとして成長は見守られ、今後延伸していく予定

浦安市

子どもたちと一緒に成長していく森

市域の86%が被害を受け、道路は寸断、ライフラインの復旧を困難にした液状化現象。その甚大な被害を受けた浦安市では、緑地や公園など、いまだ大きな段差などがついたままのところが多く見られます。公園などは約80カ所が被害を受け、そのうち35カ所が都市災害復旧事業として国からの補助を受けて工事が進められていますが、その完成は平成24年度内が目標。被害の大きさを思わせませぬ。

こうした中、浦安市では緑の防潮堤事業と呼ばれる新たな取り組みが推進されています。世界初の試みともいわれているこの取り組みは、震災により大量に出たガレキや土砂を利用したもので、高さ2m、幅10～20m、長さ70mにも及ぶ盛土が高洲海浜公園に造成されており、その上にはタブノキやスダジイなど約20品種の苗木約2500本が植樹されました。植樹作業は2011年12月に行われ、地元住民や市内の小学生ら約500人が参加しました。10年後、20年後に子どもたちと共に森が大きく成長するのを、市民の皆さんは楽しみにしています。

「浦安絆の森」と名付けられたこの森。震災を忘れず、市民の心をつなげていく役割も果たしているのです。

ワンポイントメモ
～被災前の姿～

- ▶ 九十九里海岸
九十九里浜の海岸林は、人々の暮らしを守るために先人たちに営々と育てられてきたもので「日本の渚百選」や「日本の白砂青松100選」などにも選ばれています。植えられているのは潮風に強いクロマツですが、過酷な海辺の環境に耐えうるように、通常山に植える本数の約3倍程度の密植が特徴。飛砂・潮風の防備や保健休養のための保安林として役割を果たしており、東日本大震災では津波の力を軽減させる役割も果たしました。
- ▶ 浦安市
市域の7割以上が埋立地という土地柄の浦安市。かつては遠浅の海が続く漁業の町でしたが、その多くが1960年代以降に埋め立て、造成され、新興住宅地として発展してきました。計画的なまちづくりが行われてきたため、海岸線の多くは海浜公園など市の有する土地。そのため、ガレキを利用した森の造成に素早く取りかかるとも可能となったのです。

ひとつになれ…日本 ～できることから～ グリーンカーテンに チャレンジ!

誰もが節電に取り組んだ2011年の夏。
緑のチカラを利用して、快適で過ごしやすい空間を……。
今こそライフスタイルを見直してみましょう。

植物の力を借りて

昔から人は暑い夏、木陰で休み、簾などで日陰を作って過ごしました。そうした考え方と同様、グリーンカーテンは植物を利用して壁面や窓辺を覆い、建物の気温上昇を防ぐアイデアです。

涼しさを保つことができる理由は、

- 1 日差しを遮ることで、赤外線などの熱エネルギーの侵入を軽減
- 2 建物や周辺地面などを日陰にすることで、輻射熱による温度上昇を軽減
- 3 蒸散作用によって葉から水が蒸発するときに、周囲の熱を奪うため温度が低下

などです。

こうした植物ならではの力が発揮されるグリーンカーテン。実のなる植物ならば収穫の喜びも味わうことができるのもうれしいポイントです。

グリーンカーテンの作り方

ゴーヤはもちろん、ヘチマ、インゲン、アサガオなどでも作る事が可能です。
お好きな植物でトライ! 初心者は苗を購入すると安心です。

準備

- ▶プランター (大きめで、奥行きのあるもの)
- ▶土 (培養土など。園芸土と腐葉土などを混ぜても可)
- ▶小石 (プランター底に水はけを良くするための鉢底石を敷く。玉ねぎネットに入ると再利用しやすい)
- ▶ネット (市販の園芸用ネット。設置場所に合わせたサイズ)、ネットは支柱を立ててしっかり固定する。
- ▶支柱 (苗が小さいうちは支柱を使用した方が安全)
- ▶種または苗

注意すること!

- ★支柱や外壁の強度が不足していると、途中で折れたり、強風で飛ばされたりします。
- ★生育期には昆虫が多く集まり、マンションなどでは近隣に迷惑になることがあります。また、エアコンの室外機近くに設置すると、故障や火災の原因になることがあります。



上・中/緑化推進委員会事務局
下/豊海小学校

ゴーヤの育て方

- ▶苗の定植は80cm間隔程度に。
- ▶ピニタイなどで支柱やネットに留める場合は縦8の字結び(親ツルは太くなるため)。
- ▶本葉が10枚程度出たら親ツルをカット。子ツル(脇芽)が出やすくなる。
- ▶7~8月は水管理をしっかりと。土の表面が乾いたらたっぷりと水をやる。水のやりすぎによる根腐れに要注意。
- ▶葉が黄色くなる場合は肥料不足。液肥を1週間に1回程度やる。



ミニ特集

今こそ注目! バイオマスプラスチックの未来

～木を使い、木を育て、自然環境を考える～

バイオマスプラスチックとは、生物資源(バイオマス)を原料として作られたプラスチックのこと。原料は植物由来のため、地球温暖化対策にもなり、また短いスパンで再生が可能であるため、比較的短期の循環型の資源として注目されています。



千葉県での大規模展示。丈夫で軽い木質プラスチックはベンチなど、さまざまな物に応用可能

木の香りのプラスチック

バイオマスプラスチックと一口に言っても、その原料はさまざま。千葉県で現在取り組んでいるのは、竹や山武杉、未利用の広葉樹など地域資源を粉末にし、従来のプラスチック原料であるポリプロピレンと一定の割合で混合した、複合材料タイプです。これにより従来の100%ポリプロピレンのプラスチックよりも、CO₂の排出量は55~60%削減することができ、地球温暖化対策にも一役買う素材として注目されているのです。

驚くのはその質感と香り。プラスチックといっても手触りは木の風合いで、材木を切ったときのような木の香りまでほのかに漂います。混ぜる材料の種類や割合によって、強度は異なり、用途に合わせて変化させられるのも利点。研究では水を浄化する機能なども確認されています。

間伐材などを利用して国内生産

利用されるのは製材時に出た残材や間伐材など。本来ならば処分されてしまう材料を利用しているところが特徴で、中にはコーヒー豆の薄皮などを使用した製品も。

これらの木材などを有効利用することは、結果的に森林の育成や保全にもつながり、また原料生産を国内で行うことから産業の活性化や雇用の促進にもつながります。日本のものづくりに携わる中小企業を元気にする技術であり、取り組みなのです。

これらは現在、園芸用プランターや温室時計、ペンヤカードスタンドなどの文房具や雑貨に加工され、商品の販売規模も徐々に広がっています。

大田市場での木質プラスチックを使用した展示。自然の美しさが溢れる花と、木の香りのするプラスチックのコラボレーションは秀逸



室内用プランター(左上)
メモスタンド(右上)
鳥の形のマグネット(右下)
(木の風合いを残す木質プラスチックはアクリル絵の具で容易に着色が可能)

子どものころから木になじむ

プラスチックはその便利さから私たちの日常生活の中に大量に取り入れられています。こうした中で、もっと木の良さを知ってもらおうと、緑化推進委員会では千葉県資源循環推進課バイオマスプロジェクトチームの高木純一さんを講師に迎え、緑の教室を開催。公立幼稚園の教諭を対象に、材料としての木の良さや利用の意義を伝える講義を行いました。「植林や森林整備など特別な体験だけでなく、日常の中から木の良さを感じ、生活の中で環境に貢献できることを知ってもらいたいですね。それを私たちは木育と、呼んでいます」とは高木さんの言葉。

もっと多くの方に千葉県産木質プラスチックを知ってもらい、自然と生活の中で利用されるようになれば、森林が蘇り、ものづくりが活性化し、温暖化対策の一助ともなり、暮らしが豊かなものになる……そんな可能性を秘めたバイオマスプラスチック。その研究開発は日々続けられています。



幼稚園教諭を対象に行われた緑の教室。高木さんの講義に皆真剣に耳を傾ける

【問い合わせ】
千葉県環境生活部資源循環推進課 ☎043-223-2682
【ホームページ】
<http://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/biomass/mokushitsu.html>

今回の学校は

緑化活動を通して 人・地域とのつながりを深めています
—八千代市立みどりが丘小学校—

シンボルツリーに思いを託す

八千代緑が丘駅から緩やかな坂道を登り、造成工事が続く丘の上に、2010年に開校したばかりの瀟洒な校舎があります。校門を入ってすぐの所に植えられたネムノキは、校歌の歌詞にもある、この小学校のシンボルツリーです。

「本校の経営方針は、『創造と探求』。ネムノキの花言葉は『創造力』。これはぴったりだと思ひまして」と校長の鎌谷美子先生。卒業や入学時期に花を咲かせるハクモクレン、桜と共に、昨年11月に子どもたち自らの手で植樹し、大切に育てているほか、『緑が丘クリーンプロジェクト』として、地域の方々も協力した通学路清掃と玉竜の植栽、児童と保護者が敷地内の傾斜地による芝桜の植栽も行いました。また、東日本大震災の被災地で採取したドングリを預かり苗木を育て、再度、被災地へ送り返して植樹をする「緑と心の復興・プロジェクトD」にも参加しています。

学校を地域の核に

こうした活動を資金面で支えたのが、国土緑化推進機構の「学校環境緑化モデル事業」助成金です。地域ぐるみで子どもたちを育てようと組織された学校支援委員会の鈴木介人さんを中心に、委員の皆さんが、この助成制度の活用からさまざまな緑化活動の準備などに、尽力されたとのこと。



シバザクラを植えたよ

「街も学校もできたばかりで、どのような環境になるのが楽しみです。この学校が地域の核となって、保護者や地域の方々を巻き込んだ活動をしていながら、子どもたちにも良い地域社会や人とのつながりを感じ取ってほしい」と、緑化活動や環境美化に積極的に取り組む理由について、鎌谷先生は話します。

子どもたちが大好きなのが校庭の芝生。今春の卒業生たちが、低学年の後輩たちのために、芝生のエアレーションを手伝うと申し出たとか。思いは、しっかりと子どもたちに届いているようです。

※芝生に穴を開けることで、芝生の根に空気を供給し、芝生を活性化させる。



豊かな里山は大切な財産
うっそうと茂る広葉樹。風を受けてしなやかに揺れる竹林。そんな里山的な自然を満喫できるSmile八街の森がオープンしたのは2006年のこと。物流セン

企業とみどり
～緑を愛する元気な企業～

生活協同組合ちばコープ Smile八街の森

皆の力で守り、活用

この森を大切に育て、維持しているのはボランティアと組合員の皆さん。毎月行われる「いきもの調査」ではボランティアによって虫や鳥、植物などの状況が記録され、詳細な生態調査が行われています。また「スマイル森の応援団」では、子ども連れのファミリーなども参加して下草刈りなどの森の整備を行っています。里山を受

ター建設予定地であった同地は、予定が変更され豊かな自然を感じさせる森として保全されることとなりました。
お花見もできる「はらっぱ」、手造りのログハウスがシンボルの「丸太小屋の森」、背後に竹林を控えた「炭焼きの森」、森のあずまやが目印の「ついでい森」、そして「どんぐりの森」、「ひのきの森」とエリア分けされた森には、四季折々の動植物が見られます。春にはウグイスやシジュウカラ、冬にはコゲラやヒヨドリという野鳥が見られるほか、夏から秋にはバツタやコオロギ、トンボなどの虫が姿を見せ、秋には紅葉だけでなく、シロダモやハダカホウズキ、ヤブミヨウガなどが実る森。ノウサギなどが顔を出すこともあります。
これら多様な自然を有する里山は、昔から人の手を入れることで良いバランスで保たれてきました。

DATA

生活協同組合ちばコープ

1949年に設立された生活協同組合。現在組合員数は60万人を超え、宅配や店舗販売だけでなく、介護センターやデイサービスセンターなども展開。「CO・OP」ともはくくむくらしと未来」を理念とし、人と自然が共生する社会、平和な未来を目指している。

多くの人によって、自然な姿を留め、成長していくのです。「今後はゾーンごとの整備を進めてより充実した森に育てるほか、食育に関するイベントなども実施して、組合員の方や地元の方々に楽しんでいただける施設にしていきたいですね」と言うのは、ちばコープの金子美幸さん。
楽しみながら自然に親しみ、多くのことを学ぶことのできる森。そんな温もり溢れるSmile八街の森には、さすがに素晴らしい空気が流れ、子どもたちの笑顔が溢れています。



1 植樹を行った「スマイル森の応援団」。子どもたちは小さな手で穴を掘り、クミヤコナラ、クスギ、クリなどを植えた
2 竹林整備では、古くなった竹を切り、運び出す作業を行った。1時間はどの整備で竹林は見違えるようにきれい

オススメします。この本



「元気になる! 日本の森を歩こう」

著者/日本の森を歩く会 洋泉社/1,000円+消費税

新書版で、バラエティ豊富な内容。全国の魅力的な森、巨樹のガイドや森林ジャーナリストのレポート、森と木に関する知識などを美しい写真と共に収録する。各界の専門家が森の魅力を語るインタビューも。多角的なアプローチで、日本人の暮らしに不可欠だった森を見つめ直すきっかけになる。まずは、身近な所から出掛けよう。



「日本の名景 棚田」

著者/森田敏隆 光村推古書院/1,600円+消費税

平成11年に農林水産省が認定した全国134地区を網羅する。郷愁を誘う田園風景の写真に、平均勾配、規模などのデータ、特徴の解説が付く。傾斜地と共存する人々の労作が生んだ曲線美と光のグラデーションを鑑賞できる。近ごろは治水など自然保全の役割も担う棚田が見直され、訪れる人も増えている。本県では、鴨川の大山千枚田が選ばれた。

森の名手・名人

(社)国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくににっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを生かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年度、千葉県では1名が名手・名人に選ばれました。

★ 石井 茂司さん(佐倉市・93歳) (加工部門)

竹細工の基本である、用途に合った「ヒゴ作り」や精巧な組合せに優れた技術を持つ。特に代表作の「丸籠、長籠」は、全国的にも貴重な技術である。竹製品の需要は減少しているが、最近では竹を用いた民芸、装飾品への関心が高まっていることから、佐倉竹芸保存会などで講師としても活躍し、積極的に後継者の育成に取り組んでいる。



牡丹籠

今回ご紹介した2冊のいずれかを各1名様にプレゼントします。ハガキに、ご希望の書名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係にご応募ください。また、本誌をご覧になった場所、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ下、締め切りは7月末日(当日消印有効)です。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

緑の募金は東日本大震災被災地域の 緑化・森林整備等を支援します

平成24年度 緑の募金運動
目標額 3,500万円



3月1日から5月31日まで県内
全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の
方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村
窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受け
付けています。

緑の募金では従前の各種緑化事業に加え、全国一丸となり、
東日本大震災被災地域の緑化・森林整備等を支援します。県
民の皆様のご理解と温かいご支援をお願いいたします。

平成23年度の募金総額は
31,680,000円に達しました。
お寄せいただいた募金は、学校
や公園といった公共施設の緑
化や緑の少年団に代表される
森林環境学習、また森林ボラ
ンティア活動の支援などに大き
く役立てられました。また、そ
の一部は世界規模での緑化や
森林の整備にも役立てられて
います。



平成23年度 公共施設等の 環境緑化事業を実施しました

(公社)ゴルフ緑化
促進会並びに県内協
力ゴルフ場のご協力
のもと、プレイヤー
による緑化協力金を
原資に、市町村から
希望が寄せられた下
記3カ所の公共施設
などに植樹を行いました。



大森町公園 (千葉市)

市町村	場 所	樹種・本数
千葉市	大森町公園	スダジイ1本、カンヒザクラ1本 ネムノキ1本、キンモクセイ4本
八千代市	辺田前4号公園	オオムラサキツツジ253本、 キンモクセイ5本
大網白里町	大網小学校	カツラ9本、コブシ2本、 シラカシ6本、タラヨウ1本

国土緑化運動ポスター原画コンクール 入賞作品展示会のお知らせ

平成23年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作
品展示会を下記のとおり実施します。13,674点の応募の中
から選ばれた素晴らしい作品の数々です。次代を担う子どもた
ちの緑や自然に対する思いやメッセージをぜひご覧ください。

当コンクールは平成24年度も実施します。たくさんのご応
募をお待ちしております。

期 間	場 所	展示作品
4/16(月)～ 4/23(月)	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」 ※土、日曜日は除く	特別賞、特選の 計36点
5/1(火)～ 5/11(金)	千葉市稲毛区関生町406-66 「千葉信用金庫 関生草野支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞 の計15点
5/15(火)～ 5/25(金)	四街道市中央1-7 「千葉信用金庫 四街道支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞 の計15点
5/29(火)～ 6/4(月)	千葉市中央区新町1000 「そごう千葉店 地階ギャラリー」 ※最終日は16:00まで	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
6/12(火)～ 6/24(日)	印西市原山1-12-1 「県立北総花の丘公園 花と緑の文化館内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
7/2(月)～ 7/17(火)	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
8/7(火)～ 8/19(日)	千葉市中央区青場町977-1 「県立青葉の森公園 公園センター内」	特別賞、特選、 入選、協賛賞 の計75点
9/1(土)～ 9/30(日)	千葉市稲毛区天台6-5-2 「千葉県青少年女性会館」 ※休業日は除く	特別賞、特選、 協賛賞の 計39点

※会場等都合により展示期間等が変更になる場合もございますの
で、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

表紙の絵

表紙の作品は平成23年度国土
緑化運動ポスター原画コンクール
において、中学校の部、千葉県教
育長賞を受賞した、安田渉さん
(現、中1)の作品です。



第29号 2012.3

2012年3月発行
発行 / (社) 千葉県緑化推進委員会
URL <http://www.c-green.or.jp/>
〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522
印刷 / 凸版印刷(株) TEL.043-350-5611

※この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。